自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502298		
法人名	有限会社 優コーポレーション		
事業所名	グループホーム厚宮館		
所在地	札幌市厚別区厚別西3条1丁目1番30-2		
自己評価作成日	令和4年1月20日	評価結果市町村受理日	令和4年3月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kaniti_rue&JigyosyoCd=0170502298-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501
訪問調査日	令和 4年 2月 25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が、安全で安心した暮らしが出来るように、ユニット同士での交流や職員同士の情報の共有に努めています。医療法人が母体となっているので、協力医療機関と密に連携を図り、報告や相談することで入居者様の健康管理や体調変化への対応にも十分注意を払っています。新年会・お花見・夏祭り・紅葉見学・クリスマス会などの毎月の季節に応じた行事を開催しておりますが、現在は新型コロナウイルスの蔓延状況を鑑みて、外出行事はすべて自粛致しております。しかし、そんな中でも職員が知恵と工夫を凝らし、入居者様の笑顔に応えるべく様々な企画で取り組んでいます。昨年末には2年ぶりで「餅つき大会」を実施し、杵と臼を使い入居者全員参加で大盛況でした。新型コロナウイルスが始まってからこの間、感染対策を毎日繰り返しながら職員が一丸となって取り組んできました。その成果として、この2年間入居者様全員コロナはもちろん、インフルエンザや風邪をひかれた方が誰もいないのが、我々職員の小さな誇りであります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム厚宮館は、JR駅やバス停から近く、桜咲く遊歩道や公園にも隣接した住宅街の一角に在ります。運営母体となる翔嶺館グループは多数の医療機関、介護事業を展開する中、グループホームとして当事業所を最初に開設し19年の実績を重ね、地域に根ざした事業所作りに取り組んでいます。例年では地域や事業所の祭りやイベントなどで様々な相互交流が行われ、町内会の協力の下、運営推進会議や自衛消防訓練への参加、公共避難場所の提供など、共に支え合う関係性を築いています。職員は理念を軸に、人としての尊厳に基づくケアのあり方を追求し、内部研修やOJTを生かした質向上に努め、法人独自の書式形体を生かしたバイタルサービス記録、申し送り記録、経過記録等から得た詳細且つ具体的な情報を評価検討し、本人本位のケアプランを立案しています。医療面でも運営母体による24時間体制の迅速な対応が安心を担保しています。職員はコロナ禍と向き合いながら、感染症予防へのケアを最大限に行い、利用者の心を元気にするレクリエーションを模索しています。屋内で出来る多彩な季節行事を企画し、特に食への満足に応えたいと工夫を凝らし、共に楽しみに繋がる時間を重ねることで、より豊か関係性を築く機会を作り出しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果 グループホーム厚宮館(1階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を掲げユニット内掲示し、それを見る事で各職員の意識付けを行い、共有し実践につなげている。	地域密着の姿勢と人格の尊重を謳った独自の理念を事業所内の要所に掲示し、視覚から意識を高めています。新人職員入職時や会議等で理念を確実に浸透させるなど、実践に向けた環境づくりに取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	本年度は新型コロナウイルス蔓延の為、外部の方との交流機会を設ける事が出来ておりません。	今年度もコロナ禍の影響で地域行事も事業所主催行事も休止状態です。町内会の一員として回覧板が回り、地域活動の情報を得ながら接点を持てるよう努め、リサイクル活動に協力しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本年度は新型コロナウイルス蔓延の為、外部の方との交流機会を設ける事が出来ておりません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度はフロア職員の運営推進会議への参加はありませんが、取り組み状況等について報告や話し合いを行いサービス向上に活かしています。	例年では隣接の系列事業所と合同で開催しますが、コロナ禍により各事業所で書面会議を2ヵ月毎に行っています。事業所の活動、利用者状況、事故報告、感染症対策等を記載、報告して委員会メンバーの意見、要望を得られる様に働きかけ運営に生かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が業務を行っており、直接職員が関わることがありませんが、協力関係を築くよう取り組んでいます。	行政機関とは主に館長が対応しており、運営上の手続きに関する課題や疑問点等は都度担当窓口に出向き話し合い助言を得るなど良好な協働関係を築いています。コロナ対策などの情報収集や相談はメールや電話で確認し、介護認定の区分変更でも担当職員と情報の共有を図っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正しく理解し実践している。	指針を基に法人内に委員会を設置し、3ヵ月毎に合同で開催しています。拘束と抑制等の具体的な行為について、各事業所の事例や課題をもとに話し合い、改善策や不適切ケアに関する理解を深めています。動画を活用した内部研修では職員が研修報告書を提出するなど、共通認識の下に抑圧感を感じさせないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修などで学ぶ機会を設けて、注意を払うと共に防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を設けて、理解し実践している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が業務を行っており、直接職員が関わることがありませんが、十分な説明を行い理解・納得を図っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望があった際には管理者、職員で話し合いの場を設けている。	家族には2ヵ月毎の運営推進会議録や毎月発行の「優YOU通信」で暮らしぶりを報せています。現況では面会を休止していますが、ZOOMでの面会を取り入れ案内しています。都度、電話連絡を行い家族の意向等を聞き取り、サービスの質の向上に繋げています。利用者の要望も可能な範囲で応じる態勢を整えています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のユニット会議や管理者と職員の面談等により意見交換を行っている。	館長は会議や個人面談、日常業務の中で職員の意見を積極的に聴きとっています。職員は各役割を担っており、企画提案が反映され易い環境にあります。法人本部の役職者も事業所の現状を把握し、働きながら資格取得のサポート体制など、きめ細かな就業環境を講じています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個々の実績等を把握し、環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本年度は新型コロナウイルス感染対策として行っていないが、法人グループ内外研修を受ける機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本年度は新型コロナウイルス感染対策として行っていないが、法人グループ外の同業者との交流や研修の機会を設けている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に、ご家族様や本人様と入居前面談を実施し、要望、希望、不安点等の聞き取り、本人の安心するための関係づくりに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に、ご家族様や本人様と入居前面談を実施し、家族等が困っていること要望、希望、不安点等の聞き取り、関係づくりの構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に、ご家族様や本人様と入居前面談を実施し、本人と家族等が必要とする支援の見極め、他のサービスも含めた対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にする者としての関わりを持ち、支え合う関係構築に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と連絡を取り、情報共有に努めており双方に寄り添う努力をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り、支援を行っている。	現在は面会や外出を休止していますが、携帯電話保持者は自由に連絡を取っています。友人、知人との電話や手紙のやり取りを支援し、関係継続に努めています。日常会話に回想法を取り入れ、利用者が懐かしい場所や人を思い返せる雰囲気作りに努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に利用者様同士の人間関係に注意しつつ、良好な関係が築けるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	可能な範囲で実施している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の希望や意向に耳を傾け、可能な範囲で実現できるよう努めている。	殆どの利用者は意思疎通が可能で、日頃から本人の思いや希望を聞き取り意向の把握に努めています。困難な場合は、家族からの情報や生活歴、職歴などを参考に、表情や仕草から汲み取り、得た情報は申し送り表や経過記録で共有を図りプランに生かしています。	人生の最終段階に向けて本人の思いが重要と考えられ、時間の経過によっても変化が有ることから、日常の会話の中で意向を汲み取り、得た情報を記録に残し、家族と共有を図る事を期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様との話やご家族様から生活歴等を聞き取り、サービスに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らしの現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン更新の際は必ず全職員からモニタリング意見を聞き上げ、出来上がった介護計画をご家族様に口頭で説明し、ご家族様からの要望等が有ればそれを反映させた上で介護計画を立てている。	全職員でモニタリングを行い、計画評価の根拠を明確にしています。担当職員が中心となり暫定プランを策定し、ケース会議にて職員の意見、情報を加味し、3～6ヵ月毎に介護計画を見直しています。本人、家族に説明し変更が有れば要望に応じています。独自の書式形体を生かし、利用者の行動や暮らしの情報が一目で把握可能となり、計画に沿ったケアの実践が確認出来ています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実施し、情報の共有を行い実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的な対応は実施できているが、柔軟な対応に関しては行えていない部分もある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本年度は新型コロナウイルス対策として地域ボランティア等との接触はないが、安全で豊かな暮らしを楽しめるように努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院の他、本人及び家族等の希望を大切に、適切な医療が受けられるよう支援しています。	主治医の選択は利用者、家族の意向に沿っており、24時間対応の母体病院の往診を2週間毎に受けています。専門医への受診は職員が支援し、看護師は母体病院から週1度、定期訪問があり、適切な指導や健康管理に当たっています。健康状態は家族と共有しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携病院による週一回の看護師訪問、二週間に一回の医師訪問で変化などを伝え相談し適切な医療が受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携病院との連携は良好であり、スムーズな対応ができており、情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の対応に関しては、管理者とご家族様との話し合いの上決定される為、現在の状況に関しての情報提供以上の事に職員は関わっておりません。	医療連携体制に関する指針を入居時に本人、家族に説明し同意を得ています。現状では運営母体である医療機関への移行を希望するケースが多く、看取りの経験がありません。情報の共有を密に図れる母体病院との連携体制は家族の安心に繋がっています。事業所は先の取組として、終末期支援への検討を考慮しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを準備し、各職員が熟読しております。救命研修等の実施しており、緊急時に対応できるように心掛けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時用緊急マニュアルを作成している。定期的に避難訓練を実施しており、緊急時に対応できるように心掛けている。	今年度は昼・夜想定火災避難訓練と水害時の垂直移動訓練を実施しています。隣接の系列事業所とは綿密な連携を図っています。、災害備蓄品の確保や町内会の協力で公共避難場所の提供を受けるなど、怠らない防災準備に努めています。災害時用緊急マニュアルと事業継続計画(BCP)を策定しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや対応には十分配慮している。	職員は人格やプライバシーを損ねないケアを共有し、不適切な言葉かけや対応に気づいた場合には互いに注意を促しています。自立者が多いので、排泄時や入浴時での介助は必要最小限とし、プライドや羞恥心への配慮を心がけています。申し送り時は部屋番号で示しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望や自己決定出来ような環境作りに働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に添い日によって、個々の趣味活動やアクティビティなど自由にして過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれに対して意欲はないが身だしなみはきちんとできるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや力を活かし、食材の下準備や片付け、おやつ作りに参加し食を楽しめるよう支援している。	日常食のメニューと食材は業者に委託し、代替品も用意しています。季節行事や誕生会では利用者の要望に沿ってパーベキュー、お好み焼き、パイキング、鍋など職員の手作り料理を楽しみ、時には出前やテイクアウト品で気分を変えています。おやつ作りでは利用者の出来る力を発揮しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が考え、食べる量・水分量は職員がチェックし、少ない場合は声掛けし摂取できるよう促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	昼食後は出来ていないが、朝食後・夕食後に職員の声掛けの元行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、排泄の自立にむけた支援を行っている。	殆どの利用者は自立していますが、水分摂取量、排便尿量、頻度、服薬状況などを把握し、トイレでの排泄を基本に、時には二人介助で支援しています。家族に相談しながら、時間帯や排泄量に応じて衛生用品を変更するなど、様々な角度から検討しています。重度の方の場合はベッド上の交換を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医の指示の元、下剤の調整や運動などの働きかけを行い個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全員の希望に添うことは難しいが出来る限り個人の希望に添えるよう支援している。	お風呂好きの方が多く、入浴は毎日可能で週2～3回を目安に、ゆっくりと本人のペースで楽しめるように支援しています。出来る事は自身で行えるように自立を支えています。状況に合わせて同姓介助、二人介助、シャワー浴に取り組み、脱衣時に皮膚チェックを行い、入浴剤、保湿剤、入浴後の水分補給など要望に応じています。入浴時は利用者の心にも触れ会話が弾みます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時の状況に応じ休息できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解しており、実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を活かし、役割や楽しみごと、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染対策として、外出は行っていない。	今年度は全ての外出行事が自粛となっています。ベランダでの日向ぼっこ、桜が咲く遊歩道や近くの公園までの散歩は密を避けて楽しみ外気に触れ気分転換を図っています。コロナ禍での屋内時間はレクリエーション活動を充実させストレス発散に繋がっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者がお金を使うことが有りません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が希望の際、支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節のイベントに因んだ飾りを利用者と一緒に作り、フロアの装飾をしている。	館内は清掃が行き届き、騒音や臭いも無く、温湿度、換気が行き届いています。ベランダの大きな窓に面したリビングは明るく、対面キッチンから食事準備風景等が見られ、家庭的な空間となっています。食卓テーブルやソファもバランス良く配置され、一人ひとり好きな場所で寛ぎ、壁には利用者と一緒に作った季節の装飾や自作品を掲示し、安らぎを感じられる工夫が成されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにダイニングテーブルやソファを設置し、一人ひとりが好きな場所で過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が過ごしやすいよう家具の配置などを工夫している。	使い易さ、移動し易さ、安全面を考えながら居室内の配置、環境整備を行っています。馴染みの物や使い慣れた物を置き、家族写真を飾る事で安心出来て、落ち着ける空間作りに努め、不安や混乱なく生活出来るよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お手洗いの場所など案内板を絵柄で分かりやすく示すなど工夫している。		